

# 第1回北海道新幹線倶知安駅周辺整備委員会 開催報告

## 1. 日時

2021年5月21日（金）14：30～16：45

## 2. 場所

倶知安町役場 2階会議室

## 3. 委嘱状の交付

（町長より、委員へ委嘱状を交付）



#### 4. 町長挨拶

- ・コロナの緊急事態宣言の中、皆様にお集り頂き感謝申し上げます。
- ・今月7日に、鉄道・運輸機構からデザインコンセプトに関する正式依頼があった。昨年度  
の取組の中で、コンセプトの検討に参加頂いたことに感謝したい。
- ・今年度は、歩行空間の在り方や都市施設の規模や配置などについて議論頂き、その結果を  
要望書として鉄道・運輸機構に今年度末に提出したいと考えている。
- ・倶知安町が世界に誇れるリゾート地として成長していくにあたり、新幹線開業はエポック  
となることが期待されている。
- ・役場も新庁舎となった。3階には展望テラスとして羊蹄山やニセコ連峰が見渡せる素晴ら  
しい空間となっている。今後、町民が自由に気軽に使えるスペースとして活用頂きたいと  
思っている。
- ・委員の皆様におかれては、国際リゾートの玄関口にふさわしい駅づくりに向けて忌憚のな  
い意見をいただきたい。



## 5. 委員及び事務局の紹介

(清水参事より、委員及び事務局を紹介)

## 6. 委員長及び副委員長の選出

- ・委員長として木村委員、副委員長として本田委員がそれぞれ選出される。



## 7. 議事

### (1) 委員会の目的及び北海道新幹線倶知安駅の検討状況について … 資料1

(株)ドーコン 折谷

- ・資料1について説明。

(木村委員長)

- ・タイムスケジュールを御覧頂くとお分かりのように、デザインの案が出てくると町民の関心も高くなると思われる。
- ・その時点で、駅舎デザインだけでなく駅前広場や都市施設の規模等を明確にしていくことが必要となる。

(2) 駅前広場レイアウト、歩行空間のあり方検討について … 資料2

(株)ドーコン 大川

- ・資料2について説明。

(柏谷委員)

- ・P10に「堆雪スペース」と記載がある。具体的にどのような除雪方法を考えられているか、現時点で考えられていることがあれば教えて頂きたい。

(井馬委員)

- ・広場の空間がどのような形になるか決まらないと、現時点で除雪の方法は分からない。

(柏谷委員)

- ・ロードヒーティングや毎日の除雪なども可能性があるということか。

(井馬委員)

- ・通常の道路であれば、管理基準に基づいて実施している。駅前広場についても、それに準じた形になると思う。

(木村委員長)

- ・飯山駅では、駅の出口が3つある。自動車が停車する場所は全て消雪パイプが融雪するようになっていて除雪機が入ることがないようにしている。消雪パイプの設置により、設置している周辺のコンクリートが茶色に変色するデメリットがある。
- ・緑地の整備は、ブナを植樹し将来的にはブナの森にしようと考えている。

(佐藤委員)

- ・昨年度はかなりの雪の量で家屋が倒壊したりもした。図面ではバスの停留所のところに屋根がつく形状になっている。後志総合振興局にも屋根がついていたが、結局除雪のこともあり撤去した。このような大規模な屋根は本当に必要なのか。
- ・バスの停留バースも多く設置してあるように思える。バスの需要がどのように想定しているのか。



(清水参事)

- ・大変な降雪があるので、ロードヒーティングという選択肢も考えておく必要があると思う。
- ・カバードウォークについても、ご意見を踏まえた上で検討していきたい。
- ・バスのバース数については最大値と考えている。今後これをベースに検討していきたいと思っている。

(木村委員長)

- ・新函館北斗の駅も、団体バスの乗り場に接続する部分については、後から屋根がかかったと思うが、その経緯をご存じであれば説明をお願いしたい。

(井馬委員)

- ・新函館北斗については経緯がわからないが、木古内駅については、最初からカバードウォークを設置した。

(木村委員長)

- ・飯山駅では野沢温泉へのシャトルバス乗り場まで屋根がなかったが、結局後から屋根をつける形になった。利用者が濡れないようにする工夫も必要になる。

(本田委員)

- ・この駅ができるのは10年後。除雪の方法も変わってくると思う。駅全体を含めた上で環境に配慮した施設を考えていく必要。この図にあるような堆雪スペースも本当にこのような形でいいのかという議論も出てくると思う。
- ・また、屋根があると全てを機械で除雪ができず、一部人力で処理する必要があるところがどうしても出てくる。
- ・新函館北斗駅は、駅利用者からのクレームが多くて後から屋根を付けたという経緯を聞いている。来た人がストレスなく動けるようにする工夫が必要。
- ・また、東口の駐車場が本当に必要なのか。駅のたまりスペースを考える上でこの点も皆さんの意見を聞きたいと思う。

(木村委員長)

- ・送迎の方向けに一部停車できるスペースが必要という議論があったかと思う。この点については皆さん意見いかがか。また補足説明あるか。

(清水参事)

- ・東側の一般駐車場については、現在の倶知安駅にも一般駐車場が設置されていることから、そのことを考慮して案として付けさせて頂いた。

(齋藤委員)

- ・一般駐車場のこの形態は疑問。年末年始の混雑時には一杯になる可能性もある。車の方向転換もしにくいのではないか。
- ・駅前広場の形状も出口を1つではなく、2つにすることで、駐車場のスペースを生み出すことはできないのか。

(井馬委員)

- ・駅前広場の都市計画決定を行う場合、公安委員会（警察）との協議が必要になる。今後そういった手続きが必要である旨もご承知おき頂きたい。

(柏谷委員)

- ・東口では駐車場ではなく停車帯程度で充分だと思う。また、駅前広場に一般車を入れると機能が混在してしまう問題もある。

(木村委員長)

- ・飯山では、駅前広場の中に一般車を15台程度駐車できるスペースがある。週末等はほぼ満車で、朝夕の通勤時間帯は送迎車がいるような状態。
- ・そう考えると一般の送迎需要というのは考えておいた方がいいかもしれない。

(峠ヶ委員)

- ・今の東口の駐車スペースは、長時間停める人もいる。ここにあれば、そのまま新幹線に乗ってしまう人も出てくるかもしれない。
- ・東口に駐車場があると、広場を使う人や石蔵倉庫を利用する人が駐車場を利用してしまうことも考えられる。

(木村委員長)

- ・駐車場を有料にすることで長時間の停車は避けられるかと思う。
- ・これまでの議論をまとめると、停車機能は必要である一方、東口駐車場については改めて検討していくことが必要というところか。

(吉田委員)

- ・交番がどこに配置されるかという問題もある。
- ・道路沿いに一時停車できるようになれば、10台くらいは停車スペースを確保できるのではないか。交番から見えるところであれば、長時間駐車する人はいないのではないか。

(木村委員長)

- ・都市施設としてどのような機能になるかという問題もある。その点も駐車に影響してくると思う。

(本田副委員長)

- ・都市施設の横のスペースも使えるのであれば、多少道路沿いの空間を駐停車用に転用してもまとまった広場空間の面積は確保できるのではないか。

(佐藤委員)

- ・歩行空間はイベント等に利用するということだが、飯山駅などではどのように使われているのか。
- ・倶知安の場合、倉庫群の活用も考えていることから、具体的にどのような使い方をするのかを想定して考えた方がいい。
- ・駐車場については、このような形にしてしまうと一時的に使う人が使いづらいと思う。

(柏谷委員)

- ・駅前通りは歩行者を優先させたいという方針がある。車のことを考慮してしまうと、どんどんその方針が失われてきてしまうと思う。
- ・以前、歩行空間づくりの実証実験をやった時に、子どものことを考えるとできるだけ車に接する部分は少なくして欲しいという意見もあった。

(窪田委員)

- ・東側のまちづくりを考える上でもこの空間は重要。さらに、駅に降り立った人からの視点

を考えると緑の空間の中に羊蹄山が映えるような形が望ましい。

- ・資料の2ページ目について、駅前広場の空間を確保するという点では新たな案についてもいいと思うが、駅前通りから駅を見た時の駅舎の見え方についても考慮した方がいいのではないか。

(木村委員長)

- ・今窪田委員から質問のあった件に関し、このような構想に至った経緯を改めて説明して頂きたい。

(清水参事)

- ・平成26年から「新幹線まちづくり委員会」を設置して検討を行い、その結果がこの過年度の検討という部分がこの図となる。この時は駅の東西を貫く「駅横断通」を前提とした駅前広場の配置を想定していた。駐車場も400台を想定して検討した。
- ・その案を基に令和元年度や令和2年度の検討を進めた。
- ・まず、駅前広場については、交通安全上の観点から出入口を1箇所絞っている。また、駅の東西を貫く横断道路の整備についても難しいという判断になった。
- ・駐車台数についても考え方を見直し、ピーク時で86台と想定し、その倍に相当する200台規模に想定した。
- ・交通広場についても、駅前通りから直接入れるように改良し、費用的なことも勘案してこのようになった。

(木村委員長)

- ・空間については、飯山の場合、倶知安と同様の降雪量であり、通年で利用されることは難しい。降雪期以外では、プロジェクションマッピングやマルシェなどのイベントを開催して賑わいづくりを行っている。

(金塚委員)

- ・アウトドア愛好家向けに、アウトドアメーカー等と連携してテントをここに置いたりしたら面白いのではないか。そのためには地面が土であることが必要だか。
- ・また、冬のことを考えると駅前にイルミネーションがない。冬の期間はこの歩行空間を使ったイルミネーションがほしい。木を植えることで、駅を降りた人の視界に建物が入らないような工夫もあればいい。
- ・雪だるまをつくったり、置いたりできるスペースがあれば面白いと思う。
- ・駅前広場には、緑地か木があってもどうか。

(峠ヶ委員)

- ・使い方はこれから沢山出てくると思う。それより、昨年度決定した駅舎デザインコンセプトを踏まえた空間づくりをしていくことが必要ではないか。
- ・例えば、地域の木材にも触れあえるようなものがあると面白い。いろんな人のアイデアを寄せるような仕組みが必要。

(木村委員長)

- ・より倶知安らしさを演出できるような工夫が必要というところか。

(本田副委員長)

- ・100%緑地という訳ではなく、子育て施設的な機能を担うようなものもほしい。緑地の一角

に絵本館があるとか、

- ・公園という意味では西側にくとさんパークもあるのでその棲み分けも必要。
- ・極端な話になるが、町内の老朽化した公共施設を集約して整備するような視点も必要ではないか。常に人が集まるような仕掛けがほしいと思う。

(木村委員長)

- ・新高岡駅の事例など、先進事例も含めて検討していければいいのではないか。

(柏谷委員)

- ・町民からの意見を聞くと、オープンな空間がいいという意見もあれば、屋根があればいいという意見もある。
- ・この空間に触れることで、再訪してもらえるようなものであればいいと思うが、その時のプレーヤー（運営者）が工夫できるようなスペースとして、素材のみを提供するという考え方をしてはどうか。

(宮武委員)

- ・具体的に、この4,000㎡の使い方について、具体的な姿をイメージして決めていったらいいのではないか。例えば、「木とベンチのスペース」「歩行者のためのスペース」など。
- ・駅前通から真っ直ぐ駅が見えるというのは凄く魅力。駅の正面の景観を阻害するような駅前広場の路面のふくらみは安全面でどうしても必要なものなのか。

(ドーコン 大川)

- ・このふくらみは、自動車の軌跡を検証した上で決めたもの。また、停車バース数を確保する上でもこういった形しかない判断している。

(木村委員長)

- ・駅の出入り口から駅前通りの見え方はどうなるのか。

(ドーコン 大川)

- ・今年度具体的な検討を進めていく予定。

(窪田委員)

- ・広場の機能というのは、広場に隣接してどのような機能があるかという点も重要。そう考えると都市施設の機能との連携が大切。
- ・例えば、イトインなど広場と都市施設が一体となった機能づくりなども今後検討していくとイメージがしやすくなる。

(木村委員長)

- ・長野駅は駅にスターボックスがあり、駅前広場に面するような形になっているので、そういった事例も参考にして頂ければと思う。

(金塚委員)

- ・駅前広場には、自転車を置くスペースは考慮しているのか。駅舎を利用する地元の学生などもいると思う。
- ・現在の図面ではイトインは北側に配置されているが、歩行空間側に置いた方がいいのではないか。観光案内は逆に公共交通が見えやすい方がいいと思う。

(吉田委員)

- ・石蔵倉庫にどういった機能を持たせるかによって、都市施設のあり方も大きく変わってく

る。石蔵倉庫の具体的な機能がいつ見えてくるか教えてほしい。

(本田副委員長)

- ・当初は、別のスペースで賑わい機能の創出を考えていたが、地権者等の問題があって頓挫した。その後石蔵倉庫をメインにした方向になり、具体的には今年の11月までに検討を行う予定。1パターンだけではなく、いくつかのパターンを検討する予定。公的な施設を盛り込むようなことを想定している。

(吉田委員)

- ・羊蹄山への眺望や景観を阻害するような高さになるようなことはないのか。

(本田副委員長)

- ・その辺は、西口のエリアも含めた広いゾーンの中で配置を検討していきたいと思っている。

(齋藤委員)

- ・4,000㎡ということだが、どのくらいの空間になるイメージなのか。簡単なスケッチなどを書いてもらう訳にはいかないのか。
- ・駅前広場の出入りはやはり2か所にした方がいい。この点も合わせて検討頂きたい。

(井馬委員)

- ・東側の駅前広場については、都市計画事業で整備を予定していると思う。そうすると北海道の都市計画課と協議が必要になるので留意してほしい。
- ・現駅舎の解体や西口の整備手法についても、合わせて協議が必要になる。

(木村委員長)

- ・東口の駅前広場については次回も引き続き議題として検討していきたい。
- ・今回の議題としては、駐車場をどうするかという点では方向転換の問題とか景観の問題などを含めて議論が必要。停車帯についても合わせて議論が必要となる。
- ・都市施設も事例を交えた議論も必要となる。自転車は地元利用とレジャー利用の双方の需要がある。アクティビティセンターとの連携なども考えていくことが必要。
- ・パース図については、今後機能が明確になった上で具体的に作成することになると思う。

(佐藤委員)

- ・P.13については次回の議論でいいのか。

(木村委員長)

- ・これらについては、次回検討していければと思う。

(柏谷委員)

- ・以前VRを作ったと思うが、あれはどうなったのか。

(清水参事)

- ・今年度、以前作成したVRも含めて提示したい。

(木村委員長)

- ・それでは次回以降のことについて事務局から説明お願いしたい。

(清水参事)

- ・次回以降の日程の説明。

(本田副委員長)

- ・7月の委員会の前に、現地に行って見学会を実施するようなことは考えられないか。実際に

見ると全然違う。

(清水参事)

- ・来月下旬から7月の早い時期に実施する方向で調整させていただきたい。

## 8. 閉会

以 上